くまもとアートポリス
kumamoto artpolis

熊本県

kap

2005年度 第11回
くまもとアートポリス推進賞

KUMAMOTO ARTPOLIS

第11回くまもとアートポリス推進賞の選考を終えて

選考委員長　村橋久昭

熊本県は1988年より「くまもとアートポリス事業」を開始し、豊かな自然や歴史、風土を生かしながら、優れた建築物を造り育むことを骨格として、今までに多くの注目される建築物が県内に点在し、熊本独自の豊かな生活文化を形成しつつあります。

一方、この事業を側面から促進する目的で、1995年より「くまもとアートポリス推進賞」と言う顕彰事業が進められ、2005年度も第11回目の推進賞選考委員会が実施されました。第10回目までは、現在くまもとアートポリス顧問の熊本大学名誉教授 堀内 清治氏を推進賞選考委員長として、この伝統ある顕彰事業が実施・促進されています。

今年度の選考委員長の交代は、選考委員会の委員の交代まで波及し、概ね全体的に新しい委員の構成となり、今までの選考委員会の空気をご存知の轟多朗氏（デザイン・トドロキ代表）と星子邦子氏（オフィスホシコ代表）に加えて、新しく3名の建築家・古谷誠章氏（早稲田大学教授）、武田光史氏（日本工業大学教授）、元倉眞琴氏（東北芸術工科大学教授）と報道の松尾正一氏（熊本日日新聞文化生活部次長）で、委員長（崇城大学教授）とも合わせて7人の構成であります。

今年度の選考委員会は、日程が押し詰まっていたこともあり、1次審査の在り方を3ランクの重み付け評価とし、配布された設計図書を基に書類選考で実施致しました。

今年度の応募作品は43点であり、1次審査では、重み付けの評価内容から8点の作品に絞ることができました。この結果に基づき、2次審査の現地調査は、委員全員の参加を得て、寒空の中で2日に渡って実施されました。

その結果、推進賞には、閉鎖された内的空間構成に軸足を置いた作品で、居室と中庭の組み合わせに妙を尽くした、設計密度や自由度の優れた、透明感のある住宅「K－house in 近見」1点が、全員一致で選ばれました。推進賞選賞には、設計上の粗さはあるが物語性や記号性、あるいは地域活力を包含した設計意図の明確な作品5点が選出されました。

選考の各視線は、設計上の計画性・機能性などは勿論のこと、設計要素の配列や連結など、繊細な視点からの質疑が多く、設計と制作管理の密度が求められていました。

「くまもとアートポリス推進賞」は、優れた建造物を顕彰することで、都市環境ならびに建築文化の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図るものでありますから、今後、この推進賞・選賞に類するような作品が数多く増殖することにより、熊本県内の至る所で活力ある「町づくり・田舎づくりの促進」が進展することを祈念致します。

K-house in 近見

所 在 地 ■ 熊本市近見
竣工年月 ■ 平成17年10月
用　　途 ■ 専用住宅
構　　造 ■ 鉄骨造
階　　数 ■ 地上１階
敷地面積 ■ 470.26㎡
建築面積 ■ 220.35㎡
延床面積 ■ 216.31㎡
事 業 主 ■ 古閑靖浩
設 計 者 ■ 西山英夫建築環境研究所
施 工 者 ■ 株式会社東稜建設

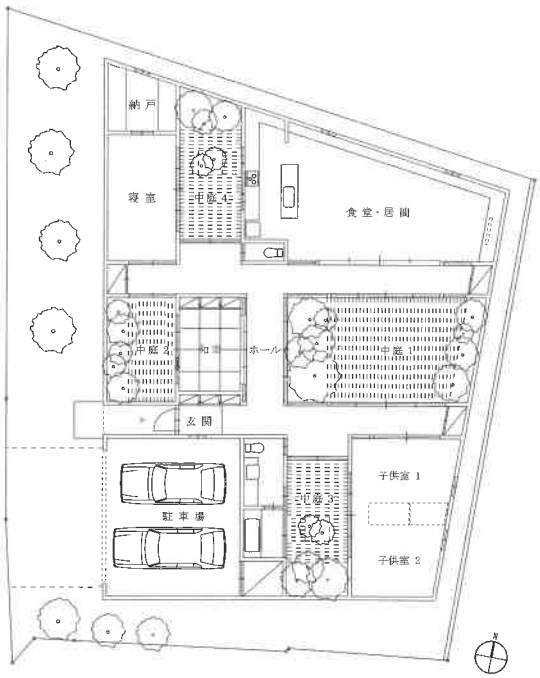
『周りを気にせずに、のびのびと暮らしたい。』 施主は、設計者に言った。この言葉から本作品の応募文章は始まっている。こげ茶色のガルバリウム鋼板と同色の杉板壁面で囲われた空間の中に、駐車場も含めた全ての機能が、パズルのように驚くほど行儀良く納まった平屋住居である。

デッキ様式の、気分のいい中庭が４箇所に配してあり、そこに立つと想像していたよりも大きな青空を楽しむことができる。その中庭を抱き込むように４つの部屋が配置されている。中庭のほうが各部屋を抱き込んでいるとも言える。どの部屋もいずれかの中庭と同化していて、不思議なのびのびとした雰囲気を持っている。邸内を走るアクアカラー塗装のモルタル廊下も面白い効果。異素材の組み合わせにも設計者の洒脱なセンスが感じられる。設計者がこだわったと言う、「空間の等価」という表現が、理性的に具現化され豊かな空間を作り出しているのが、見ている方にも心地よく伝わってくる。

内部界と外部界を遮断する圧倒的な外観と豊かな内部を併せ持つこの作品は、最終審査の話し合いで、細部に亘る気配りと完成度の高さも含めて、選考委員全員の絶大な評価を得た。前述の外壁の中に作り上げられたひとつの世界を、閉鎖された生活空間として、どのように捉えるかと言う疑問を感じた或る選考委員も、現場に隣接する大型店舗やマンションというロケーションを実際に見て回って、この大きな仕掛けがプラスの要因となっている、と高評価した。

一見、不利に見えるロケーションを逆手にとって、施主の要望と設計者の創造波長がうまく同調した結果出来上がった、丁寧な作品と言えるだろう。

（轟　多朗）



中　庭

リビングルーム

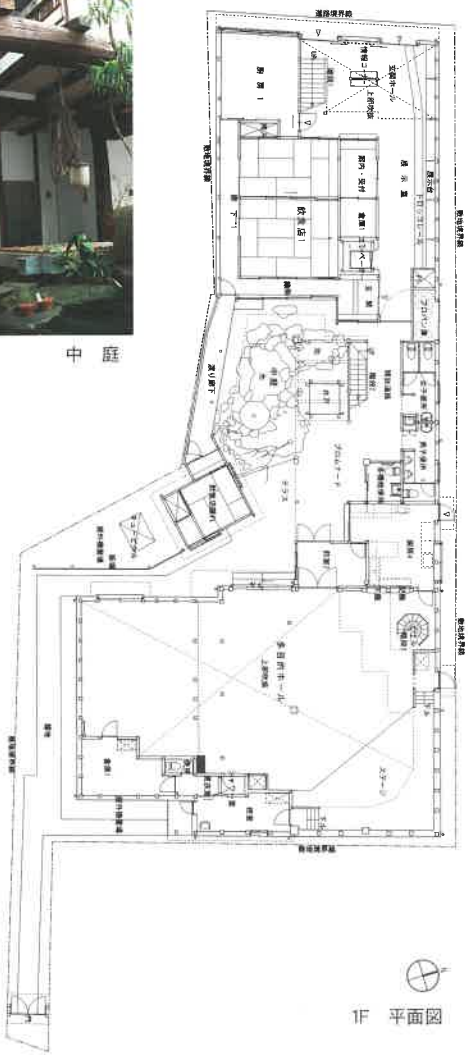
くまもとアートポリス
推進賞 選賞

kumamoto artpolis

高瀬蔵

所 在 地	玉名市高瀬字魚屋町155-1
竣工年月	平成１７年３月
用　　途	多目的ホール・飲食店
構　　造	木造
階　　数	地上２階
敷地面積	669.96㎡
建築面積	459.29㎡
延床面積	649.19㎡
事 業 主	玉名商工会議所
設 計 者	株式会社連合設計社市谷建築事務所
施 工 者	植野建設株式会社

中　庭



1F　平面図

裏川水際緑地公園は風情のある古い石橋がいくつも架かり、菖蒲の名所として多くの人が訪れる美しい場所である。それに対して、表通りはやや元気がなく、かつては趣のあった景観は崩壊しつつある。「高瀬蔵」はそんな場所の歴史の良い資産を受け継ぎながら、街の景観をつくり、街を活性化させようとする試みである。

明治期に建てられた母屋と２つの蔵を改修し、飲食施設と多目的ホールとして再生されたものである。施設を複合化させるところで、少しぎくしゃくしたところも見受けられるが、全体としては良くまとまっている。２つの蔵を連結して一体のホールにした試みは不思議な空間を誕生させた。いろいろなことに使ってみたくなるような空間である。厳密に保存再生した文化財ではなく、適当に原型を壊していることが親近感を与えているように感じた。

表通りから建物の中を通り、路地を巡って裏川に抜けられるルートを確保したことはこの施設の大きな役割である。この通り抜けは、トロッコと軌道の保存と共に、米問屋が立ち並んでいたこの地域の歴史を継承する意味をもっている。さらにエリアとしての散策の回遊性を生み出すことにも成功している。

素材の選択やディテールの処理において、改修の方針が徹底しきれていないところも少し気になったが、この３棟の難しい素材に果敢に挑戦し、善戦したことを高く評価したい。

このような小さな施設こそが地域を変える力をもっている。その可能性を考えたとき、高瀬蔵の成立とそれを支えるNPOの活動は貴重である。応援もこめて賞を贈りたい。

（元倉眞琴）

多目的ホール

3 Towers

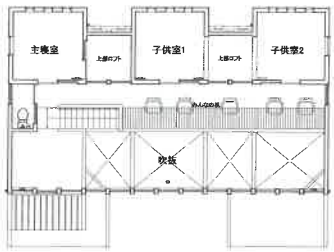
所 在 地	合志市須屋
竣工年月	平成１７年１０月
用　　途	専用住宅
構　　造	木造
階　　数	地上２階
敷地面積	197.01㎡
建築面積	87.03㎡
延床面積	134.96㎡
事 業 主	上田敏雄・民子
設 計 者	菊池建築工房
施 工 者	有限会社高木ハウジング

両親と６歳から１歳の３人のお子さんが暮らす家。ありふれた住宅地の中でひときわ目を引く３本のタワーの外観が、町並みに対して殻を囲い込むのではなく、正面性をもって町並みに対峙して人を迎え入れようとするこの家の姿勢を物語っている。台所、浴室の水回りを両脇に、入り口を真ん中に取った思い切りが、正面に不思議な象徴性を与えた。お子さんたちの友だちにとって、きっとこの家は大人気の子供の城になるだろう。

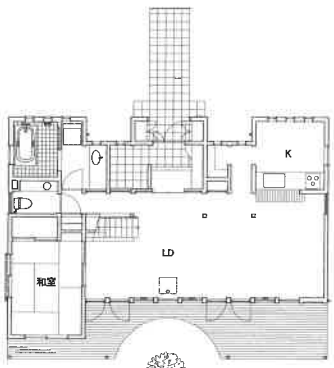
内部空間に入ると、その正面に薪ストーブ、さらに後方庭にはシンボル樹が植えられて軸性が貫かれているが、むしろ現実には、それに直交する木架構の大きな吹き抜け空間がより強く知覚される。平面図などによって想像していたものより、はるかに伸びやかで開放的に感じられた。おそらく和室の上空を含めてこの１枚の大屋根が連続しているためもあるだろう。

熊本で木造を採用するからには、木をけちけち使うのではなく、ふんだんに使ってこそ効果があるという意見に、私は基本的には賛成である。その意味でこの家のやや過剰とも言える910ミリピッチの大きなほお杖架構も、構造的合理性よりは、むしろ梢の連続する林のような空間を作りたいという、願望の点において了解した。この「林」があることで、３本の棟の中の小振りな個室空間群が、かえって森のバンガローのように感じられて、それはそれで愉快そうだ。ただ強いて言えば、吹き抜け、個室とも全体に床の広がりに対して背が高すぎて、居心地のよさがやや失われたように思う。このプロポーションにうまくフィットして、これを生かせる布製の家具などをうまくアレンジすると、だいぶ改善されるかもしれない。なぜ「布」なのかというと、既にこの家の内部空間には素材としての「木」の表出が多すぎて、かえって息苦しさを感じさせているように思えるからだ。素材どうしの柔らかいコンビネーションが生み出せるといい。

（古谷誠章）



2F　平面図



1F　平面図

吹抜け

リビングルーム

撮影者：飯塚哲也

美里町立中央小学校体育館

所 在 地 ■ 下益城郡美里町馬場地内
竣工年月 ■ 平成１７年１月
用　　途 ■ 体育館
構　　造 ■ 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
階　　数 ■ 地上２階
敷地面積 ■ 19,643㎡
建築面積 ■ 1450.64㎡
延床面積 ■ 1341.62㎡
事 業 主 ■ 美里町
設 計 者 ■ 株式会社ＳＤＡ建築設計事務所
施 工 者 ■ 株式会社高橋建設

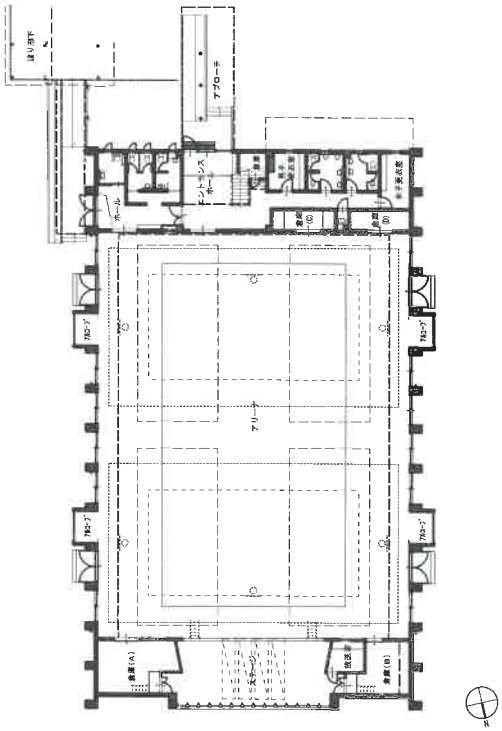
山々に囲まれ緑いっぱいの地域に、スマートさが一際目を引く小学校の体育館。小高い丘に立地し、見上げるとすっきりとシンプルなその姿が捉えられる。外壁は地元で生産された杉材を自然塗料で色掛けして横に張り、３ｍピッチの黒い構造材をアクセントとしてまとめあげられている。天然材をたっぷり使いながら、大屋根から斜めに張られたガラス面には周囲の景色が反射して見える仕掛けを施すなど、スタイリッシュな仕上げは、子供たちの自慢の体育館になっているに違いない。

体育館に隣接した敷地続きに町民グラウンドがあり、地域に開放された施設として利用されることから、ミーティングルーム、ステージ・アルコーブは学童使用というより、幅広い年齢の多様な価値観での活用を意識して作られており、おしゃれでスマート。

内装は杉板を上下で幅を変えた目透かしにして、吸音と音響調整板の役割を持たせ、内部には断熱も兼ねて天然木質系の吹きつけ材を吹き付けるなど、デザインと機能の双方に配慮したものとなっている。黒塗りのＹ型柱と梁が目透かしの杉板の色とセンスよくマッチングし、おしゃれしてスポーツをしたくなる雰囲気であることも楽しい。

又、将来、補修が必要になった時、地元の人が地元の材料を使って施工できるように、という配慮もあり、単なるスポーツ施設としてではなく、将来に渡り地域性の高い施設としての存在が感じられた。

（星子邦子）



1Ｆ　平面図

玄　関

アリーナ

玉名温泉 つかさの湯

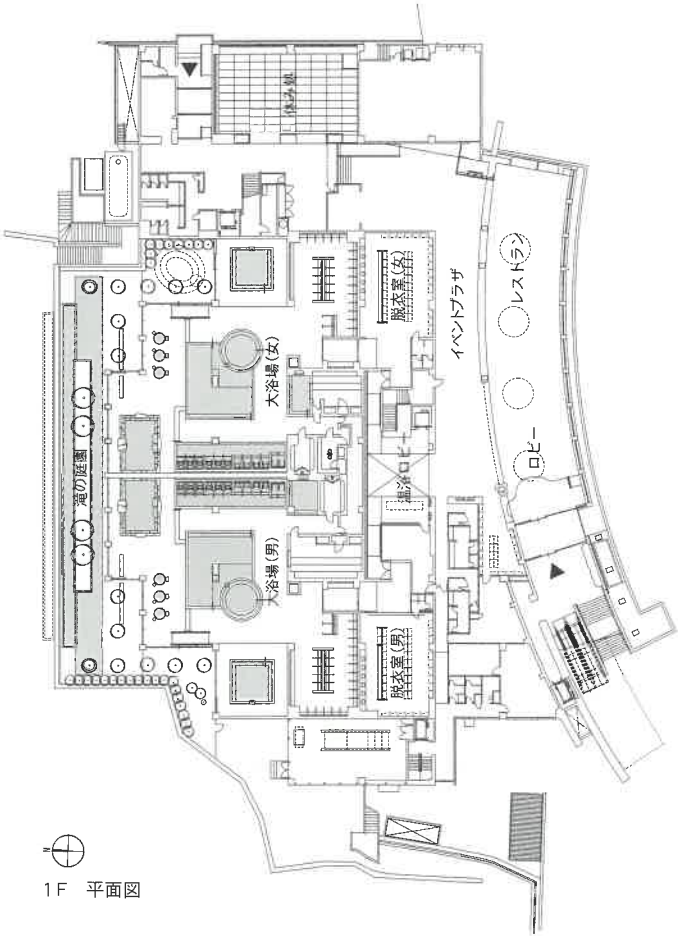
所在地	玉名市立願寺字東段656-1
竣工年月	平成17年10月
用途	公衆浴場
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上２階　地下１階
敷地面積	16,880.22㎡
建築面積	4142.11㎡
延床面積	7178.79㎡
事業主	司観光開発株式会社
設計者	清水建設株式会社九州支店
設計者	株式会社フィールドフォー・デザインオフィス
施工者	清水建設株式会社九州支店

玉名温泉のホテルが建設した温泉施設である。大手ゼネコン設計施工の、完成度の高い建物だ。高低差のある敷地の町側に一層分の空間を置き、奥を二階建てとして、建物のヴォリュームの軽減を図っていることに好感がもてる。緩くカーブした片流れの大屋根とともに、格子や石積みの擁壁などの意匠は、和風のイメージを強調することに成功している。

外観とは対照的に、インテリアデザインは水のモチーフを使ったモダンな表現で、来客の意表を突く。エントランスホールと一体のレストランは、運営上の都合だろうか、仮設的なパーテションで囲われているが、食事の楽しさが伝わる空間であれば、もっと良かっただろう。スパは、家族風呂のゾーンがアプローチも内部も丁寧に作られていて秀逸である。大浴場ゾーンも、趣向を凝らした各種の浴槽がのびやかに配されて、適切な素材の使い方と相まって気持ちが良い。それだけに、外部空間との連続性が弱いことが惜しまれる。

商業施設も正当に評価されるべきだと思う。来客の行為が館内で完結しているために、町への波及効果が薄いことや、内外のデザインの過剰さには軽い違和感を覚えたが、『温泉街の起爆剤としたい』という、事業者や設計者の意欲が伝わる力作である。

（武田光史）



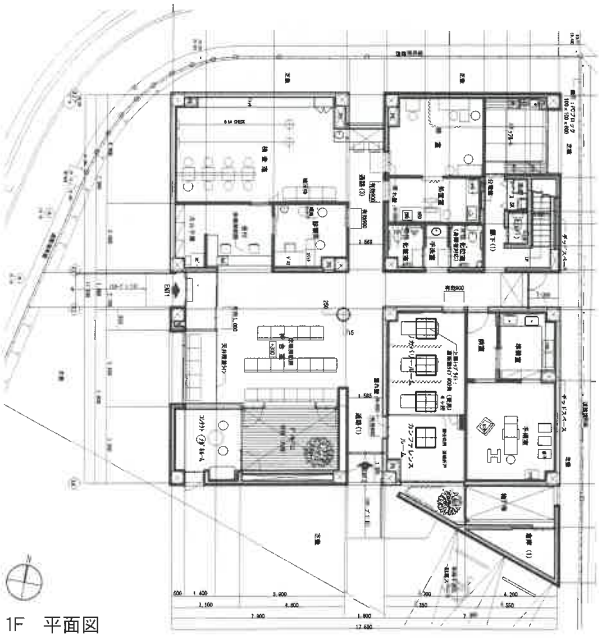
1F　平面図

レストラン

大浴場

堀田眼科医院

所 在 地 ■ 菊池郡菊陽町大字久保田字下原2692-1
竣工年月 ■ 平成１５ 年１０月
用　　途 ■ 診療所
構　　造 ■ 鉄筋コンクリート造
階　　数 ■ 地上２階
敷地面積 ■ 916.21㎡
建築面積 ■ 310.98㎡
延床面積 ■ 351.64㎡
事 業 主 ■ 堀田明弘
設 計 者 ■ グローバル アーキテクツチーム ガット
施 工 者 ■ 清水建設株式会社九州支店



1F　平面図

処置室

やっぱり現地を見ないと分からない。菊池郡菊陽町の堀田眼科医院の建物には、予想を裏切られる楽しさがあった。

一辺約八メートルの立方体を四つ並べて正方形に構成された鉄筋コンクリート二階建て。周囲どこから見ても、赤いレンガ張りとコンクリート打ちっ放しの二つの四角形がドンと並ぶ同じような「顔」。図面や写真を見たときは正直、無機質さばかりが印象に残った。

しかし三面を道路に囲まれた現地に立つと、どこから見ても同じ顔であることが、ランドマーク的な存在を意識したものと聞いて素直に理解できた。赤いレンガの外壁も隣接する町役場の建物などと微妙にマッチして、一帯に調和した空気すら漂わせていた。

そして室内に入ると、意外なくらいに柔らかく明るい吹き抜けの空間が待っていた。天井から入るまぶしいほどの自然光にあふれた待合室。植栽のあるフローリングの中庭もあって、ここなら少々待たされても許せそう。このほか一階には診察室、検査室、暗室、手術室、リカバリールームなどが機能的に配置され、院長室だけが二階にあるのも、なんだか隠れ家のようでほほえましかった。

全体として外観の「重さ」が気にならなくはないが、無機質な外観と柔らかい室内とのギャップのほうが新鮮に感じられた。「眼科医は普段暗いところにいるもので、室内には光が欲しかったんです」と、若い院長先生。「美術館や図書館と間違われたりもするんですよ」と語る、満足そうな笑顔が印象に残った。

（松尾正一）

待合室

受賞作品一覧　くまもとアートポリス推進賞（第1回～第10回）

第10回 2004年度

55 ■九州新幹線新水俣駅［水俣市］

56 ■S.W.H［南阿蘇村］

57 ■田迎の家［熊本市］

58 ■東海大学附属第二高等学校［熊本市］

59 ■ひだまりのまち B*［八代郡氷川町］

第9回 2003年度

51 ■熊本保健科学大学［熊本市］

52 ■I-HOUSE［熊本市］

53 ■熊本市現代美術館［熊本市］

54 ■UEDA.Residence［熊本市］

第8回 2002年度

46 ■久野邸［熊本市］

47 ■立田山野外保育センター［雑草の森］［熊本市］

48 ■八代の町屋［八代市］

49 ■いのうえデンタルクリニック［熊本市］

50 ■大野温泉センター［芦北郡芦北町］

第7回 2001年度

39 ■荏原九州［玉名郡南関町］

40 ■K.Residence［熊本市］

41 ■つなぎ美術館［芦北郡津奈木町］

42 ■稗田の舎［熊本市］

43 ■ガレリアのある舎［玉名市］

44 ■chase［天草市］

45 ■キューネット社員寮（希翔館）［熊本市］

第6回 2000年度

32 ■やつしろハーモニーホール［八代市］

33 ■城南の舎［下益城郡城南町］

34 ■美里町社会福祉保健センター「湯の香苑」［下益城郡美里町］

35 ■ネクステージビル［熊本市］

36 ■熊本YMCA 阿蘇キャンプメインホール［阿蘇市］

37 ■セカンドサイト［熊本市］

38 ■篠の斎場［球磨郡多良木町］

第5回 1999年度

25 ■水上村立湯山小学校［球磨郡水上村］

26 ■美里町総合交流ターミナル［石段の里　佐保の湯］［下益城郡美里町］

27 ■植柳新町公民館（地域学習センター）［八代市］

28 ■シルワ・エッセ［熊本市］

29 ■50M-樣の森美術館［阿蘇郡小国町］

30 ■宮崎耳鼻科［熊本市］

31 ■矢野邸［熊本市］

第4回 1998年度

18 ■老人保健施設かがみ苑［八代市鏡町］

19 ■熊本県信用保証協会 八代支所［八代市］

20 ■HOUSE:H-M［球磨郡あさぎり町］

21 ■水俣市保健センター 水俣市総合もやい直しセンター［水俣市］

22 ■古閑邸［熊本市］

23 ■聖母の丘［熊本市］

24 ■下宮はまどん公園［八代郡氷川町］

第3回 1997年度

12 ■久連子古代の里［八代市泉町］

13 ■養護老人ホーム 八代市立保寿寮［八代市］

14 ■水俣市営洗切団地［水俣市］

15 ■丸尾焼工房［天草市］

16 ■人吉の舎Ⅱ/平井邸［人吉市］

17 ■浮島周辺水辺公園［上益城郡嘉島町］

第2回 1996年度

9 ■慈愛園ノーマンホーム［熊本市］

10 ■阿蘇白水温泉「瑠璃」［阿蘇郡南阿蘇村］

11 ■ふるさとセンターY・BOX［玉名市横島町］

第1回 1995年度

1 ■小国町西里小学校［阿蘇郡立小国町］

2 ■東陽石匠館［八代市東陽町］

3 ■八代広域行政事務組合 消防本部庁舎［八代市］

4 ■野田市兵衛商店 流通団地営業所［熊本市］

5 ■清和物産館（四季のふるさと）［上益城郡山都町］

6 ■荒瀬ダムボートハウス［八代市坂本町］

7 ■出田眼科病院［熊本市］

8 ■尚玄山荘［玉名市］

■…くまもとアートポリス推進賞
■…くまもとアートポリス推進賞選賞

撮影：❶神原陽一 ❸岡本公一 ㉑㊷冨重清治 ㉓石丸捷一 ㊺(株)アイオイプロフォート ㊼吉田誠

第11回くまもとアートポリス推進賞

募 集 要 項

■ 趣　旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーから国の内外より推薦を受けた設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種イベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成７年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

■ 表彰対象

概ね５年以内に竣工（改造、改修、修復を含む）した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等（くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く）とします。

■ 選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

① デザインが優れているもの
② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
③ 良好な施工が行われているもの
④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
⑥ 維持・管理が良好なもの
⑦ 地域づくりに寄与しているもの
⑧ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの

■ 賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。

事業主（必要に応じて管理者を含む）、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

■ 応募資格

自薦・他薦を問わず、どなたでも応募できます。

選 考 委 員

武田光史（日本工業大学教授、㈱武田光史建築デザイン事務所代表）
轟　多朗（デザイントドロキ代表、熊本県文化協会理事）
古谷誠章（早稲田大学教授、スタジオナスカ代表）
星子邦子（オフィスホシコ代表）
松尾正一（熊本日日新聞文化生活部次長）
村橋久昭（崇城大学教授、熊本県建築士会会長）
元倉眞琴（東北芸術工科大学教授、スタジオ建築計画代表）

選 考 経 過

募　　集	平成17年10月17日～11月15日　応募件数43件
書類選考	平成17年11月20日～12月 6日
現地審査	平成17年12月19日～20日　現地審査件数8件
最終選考	平成17年12月20日　推進賞1件、推進賞選賞5件
表 彰 式	平成18年 3月23日

熊本県
土木部建築課
〒862-8570
熊本市水前寺6丁目18番1号
TEL. 096(383)1111(内線6215)
FAX. 096(384)9820
http://pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html

くまもとアートポリスのマーク

シンボルマークは3つの楕円と1つの小さな丸で構成されています。
3つの楕円は、左から順に「地球／世界」「くまもとアートポリス／熊本」「ひと／地域」が、互いにつながっていることをあわらします。
楕円の傾きは地球の地軸の傾き（太陽を中心とする公転軌道に対する地球の軸／南北軸の傾き）と同じ23.5度です。
シンボルマークは、くまもとアートポリスの目標「地域と対話、地球とネットワーク」に対応しています。くまもとアートポリスは、地域に生活する人々と対話しながら様々な建造物や環境を創造します。同時にこのような活動は、常に地球規模のネットワークとも繋がり、世界的な環境への配慮や地域文化的な広がりをもっていることを示しています。

PRINTED WITH SOY INK
大豆油インクを使用しています
R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

第11回 くまもとアートポリス推進賞
作品募集

趣　旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーから国の内外より推薦を受けた設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種のイベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成７年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

2004年度　第10回受賞作品

くまもとアートポリス推進賞

九州新幹線 新水俣駅（水俣市）
撮影／(株)アイオイ・プロフォート

S.H.W（南阿蘇村）

田迎の家（熊本市）
撮影／吉田　誠

くまもとアートポリス推進賞選賞

東海大学付属第二高等学校（熊本市）

ひだまりのまち　B4（氷川町）

熊 本 県

kap kumamoto artpolis

募集要項

●表彰対象
概ね5年以内に竣工（改造、改修、修復を含む）した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等（くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く）とします。

●選考基準
本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工、及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

① デザインが優れているもの
② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
③ 良好な施工が行われているもの
④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
⑥ 維持・管理が良好なもの
⑦ 地域づくりに寄与しているもの
⑧ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの

●賞
賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。
事業主（必要に応じて管理者を含む）、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

●募集期間
平成17年10月17日(月)から11月15日(火)まで
なお、郵送の場合は募集期間内の消印があり審査に間に合ったものを有効とします。

●応募資格
自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

●応募方法
応募用紙に必要事項を記入のうえ添付資料を添えて、熊本県土木部建築課アートポリス班まで提出してください。
添付資料は、配置図・平面図・立面図・断面図等の図面と外観及び内観の写真をA３版の用紙４枚以内（裏面使用は不可）にまとめてください。
応募者は、あらかじめ事業主、設計者、施工者、管理者の了解を得てください。
なお、応募用紙は、くまもとアートポリスのホームページの「顕彰事業（くまもとアートポリス推進賞）」に掲載しています。
http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html

●選考方法
提出された書類による書類選考で概ね10作品程度を選出して現地審査を行い、現地審査を行った作品の応募書類と現地審査により最終選考を行います。

●選考委員（50音順）
武田光史（日本工業大学教授、武田光史建築デザイン事務所代表）
轟　多朗（デザイントドロキ代表、熊本県文化協会理事）
古谷誠章（早稲田大学教授、スタジオナスカ代表）
星子邦子（オフィスホシコ代表）
松尾正一（熊本日日新聞社文化生活部次長）
村橋久昭（崇城大学教授、熊本県建築士会会長）
元倉真琴（東北芸術工科大学教授、スタジオ建築計画代表）

●発　表
平成17年12月（予定）、該当者及び全応募者に通知します。

●表　彰
平成18年３月(予定)、表彰式を行います。

●その他
応募資料は返却しませんので、必要な場合はあらかじめ複写をお願いします。

提出先・問い合わせ先

熊本県土木部建築課アートポリス班
〒862-8570　熊本市水前寺6-18-1
電　話／096-383-1111内線6215・6230　ファックス　096-384-9820
メール／kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp
ホームページ／http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html